学力向上と豊かな心の育成
～言語活動の充実をとおして～

秩父市立荒川東小学校

1　はじめに

小・中９年間を見通し、地域全体の教育力向上が求められている。荒川地区では小・中３校で合同研修や連絡会を密に行い、各校の実態把握、校内研修の成果と課題等を共通理解している。そして、よりよい教育実践を目指し、「学力の向上と豊かな心の育成」を小・中連携の大きな柱として、言語活動の充実を図りながら課題解決に向けて取り組んでいる。

2　研究の概要

（１）主題の設定の理由

本校の児童は、自分の考えを書いたり、説明したりする力に課題が見られる。そこで、荒川３校の「学力向上と豊かな心の育成」を主題とし、本校では言語活動をより一層充実させながら主題に迫ることにした。教科等の指導において、本年度は「秩父地区算数数学教育研究協議会研究校」の委嘱を受け、算数科で小集団の学習活動を効果的に取り入れたり、話合いを十分にしていくことで学力を高めたり、豊かな心の育成が図られたりできるだろうと考えた。

3　全体の構成

学校教育目標

・進んで学ぶ子　・助け合う子　・元気な子

研究主題

学力向上と豊かな心の育成
～言語活動の充実をとおして～

研究の仮説

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、課題解決やペア・ユニット、全体での学び合いの充実を図れば、思考力、判断力、表現力だけでなく、成就感や達成感を味わわせることができ、学力向上と豊かな心の育成ができるであろう。

荒川東小学校のめざす児童像

・自分の考えを書ける子　・自分の考えを説明できる子　・話したり聞いたりできる子

低学年ブロックのめざす児童像

・考えたことを書ける子
・自分の言葉で説明できる子
・しっかり話を聞ける子

高学年ブロックのめざす児童像

・自分の考えを筋道を立てて書ける子
・わかりやすく自分の言葉で説明できる子
・相手の話をしっかり聞き、話し合える子

4　具体的な取組

（１）「算数科」における授業研究

ア　低学年ブロック

要請訪問授業研究会（７月１日）

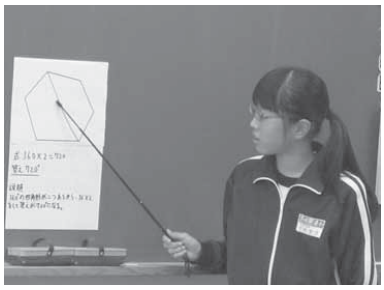
〈第３学年〉「あまりのあるわり算」

手立て

・問題文を読むとき、下線を工夫してひかせて内容を読み取らせる。

・自信をもって発表することができるために、ノートに自分の考えを書かせる。

・ペア・ユニット学習を用いることにより、他の考え方を知ることができる。



イ　高学年ブロック

秩父地区算数数学教育研究会研究協議会（１０月１７日）

〈第５学年〉「図形の角」

手立て

・直感的に認識できるものを用意し、容易に図や式を立てられるようにする。

・ペア・ユニットでの話し合いをとおして、互いの考えを確認しながら、もう一度整理することができる。

・毎時間授業の最後に学習感想をまとめさせ、自分の取組を振り返ったり、児童一人ひとりの学習状況、学習到達度を把握しながら次の授業に生かしていく。

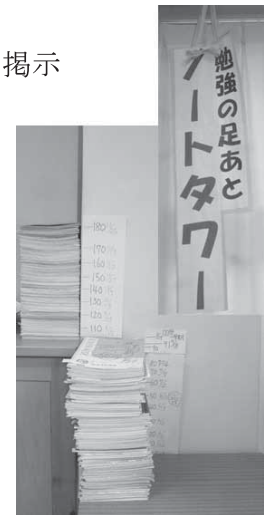
（２）ユニバーサルデザインの視点（はっきり・すっきり・くっきり）

全ての学級の全ての児童にわかりやすい授業の実践

（３）環境整備

・「算数学習のすすめ」「発表のしかた」「話す約束・聞く約束」の掲示

・名文暗唱掲示



（４）家庭学習・読書活動定着に向けた工夫

・家庭学習カードの活用

・「家庭学習のススメ」による啓発

・学習努力の見える化計画

・秩父市立図書館『朝読セット』の活用

・各学年の年間読書目標の設定

・図書カードの工夫・改善と環境整備

・学校応援団や図書委員会による読み聞かせ

5　おわりに（成果と課題）

【成果】ペア・ユニット学習を取り入れたことにより、自分の考えを自信をもって説明できていた。そのことにより、授業への参加意欲が高まった。

【課題】自分の言葉で、わかりやすく説明する力をさらに充実させる必要がある。

今後も実践につながるよりよい研修を推進し、自分の考えを自分の言葉で伝えることができる児童の育成を目指したい。　（担当　教諭　石川浩之）

学力向上と豊かな心の育成
―　言語活動の充実をめざした授業の工夫改善
心豊かな児童を育てる活動の充実　―

秩父市立荒川西小学校

1　主題設定の理由

本校児童は、各学級が少人数ということもあり、児童一人一人に教師の目が行き届き、細やかな指導ができる。また、一人一人の発言の機会も数多くとることができ、児童の主体的な学習につなげやすい。

反面、教師と一対一対応になりやすく、教師に頼りすぎてしまったり、自分の考えを学級全体に伝えるという意識が薄くなり､話し合いの中から考えを深めていくということが苦手だったりする。このようなことから、お互いの意見をしっかりと伝え合うことのできるコミュニケーション能力を高めることが必要であると考えられる。そこで、言語活動の充実を図るための研究を今年度も継続することとした。

また、言語活動の充実を図るためには、お互いを思いやり、相手のことを尊重できる温かい心を持ち合わせていなければならない。加えて、大滝小学校との統合、特別支援学級の新設で、児童同士がお互いを理解し、思いやりの心をもって接しなければならない場面も増えている。そこで、相手を思いやる心が児童一人一人に育つことが大切であると考え、心の教育にも力を入れて、言語活動の充実を図っていきたい。

2　研究の柱

（１）言語活動を充実することにより、確かな学力の向上を目指す。
　　（児童一人一人が主体的に活動するための、伝え合う力の育成）

（２）道徳、特別活動の工夫により、豊かな心の育成を目指す。
　　（美しいものに感動でき、友達を思いやることのできる心の育成）

3　研究の概要

（１）めざす児童像

ア　思考力・判断力・表現力を働かせ、主体的に生活することのできる児童

（ア）低学年　・自分の考えを、進んで友だちに伝えることができる児童
　　・友だちに優しく接することのできる児童

（イ）中学年　・自分の考えをわかりやすく伝えたり、友だちの考えをしっかりと聞いたりすることのできる児童
　　・友だちの気持ちを考え、優しく接することのできる児童

（ウ）高学年　・自分の考えと友だちの考えを比較したり、それをもとに結論を導いたりすることのできる児童
　　・友だちの気持ちを考えながら、よりよい人間関係をつくることのできる児童

（２）研究の仮説

ア　言語活動の充実を図ることで、児童同士がお互いの考えを出し合いながら学習を進め、自らの考えをさらに深めることができるようになり、児童一人一人の学力の向上につながるであろう。

イ　道徳や特別活動の時間の充実を図ることで、相手を思いやり、友達の思いを尊重できる豊かな心を育むことができるであろう。

（３）研究の手立て

伝え合う力	思いやりの心
○「話す」「聞く」活動の充実 ・授業中の話し合い活動 ・学級での詩の朗読 ・全校での群読発表会 ・朝の会の１分間スピーチ	○道徳教育の充実 ・授業を充実させる資料選択と資料分析 ・児童の目線にたった資料渡し ○人間関係づくりを意識した学級活動の充実 ・仲間意識を高める学級指導

○「書く」活動の充実 ・家庭学習での３行日記 ○「読む」活動の充実 ・読書カードの活用 ・読書月間 ・読書タイム	・相手の意見を尊重しながら、結論をまとめる話し合い活動 ○ふれあいを重視した学校行事の充実 ・集会活動　・縦割り班清掃活動 ・全校遠足　・西小まつり ○優しさを感じることのできる環境の充実 ・おもいやりの木　・おもいやり週間
○児童の実態把握　・伝える力に関するアンケート調査の実施	

４　具体的な取組

（１）学力向上部

ア　「話す」「聞く」活動の充実　（群読発表会・スピーチ）

イ　「書く」活動の充実　（３行日記・家庭学習）

ウ　「読む」活動の充実　（読書タイム・読書カードの活用）

群読発表会

（２）豊かな心育成部

ア　思いやりの心の育成（『おもいやりの木』の掲示）

・友だちの優しさにふれたこと（１学期）

・友だちが他の人に優しくしてあげたこと（２学期）

・自分が優しくできたこと（３学期）

おもいやりの木

（３）授業研究

ア　校内授業研究会

全教員が、研究テーマを意識した授業を略案を立て行った。

（６／２３　６年社会科　７／　２　３年算数科

７／１４　１年算数科　１０／３０　２年国語科

１２／　９　４年図画工作科

１２／１６　５年道徳）

イ　要請訪問授業研究会（１１月２１日）

第６学年道徳　指導者　柿沼心太朗　教諭

（ア）資料名

「共に生きるために」　２－（３）信頼友情

（イ）研究テーマ達成のための指導の工夫

・思いやりの心を育てるための資料選択と分析

・伝え合う力を育てるためのペアでの話合い

（ウ）研究協議から

・信頼・友情を高めるための資料を選択したが、葛藤場面を作る柱立てが難しかった。

・ペアでの話合いを取り入れることで、様々な考え方があることを知るとともに、自分の考えを全体の前で発表する時の助けとなった。

５　成果と課題

（１）成　果

・スピーチや日記を継続することにより、内容をわかりやすく表現できるようになった。

・音読や詩の暗唱をクラスみんなで行うことにより、大きな声で発表したり、表現することの喜びを感じたりすることができた。

・本を読むことが好きになり、集中力もついてきた。

・おもいやりの木を廊下に掲示し目にすることで、意識することができた。

・自分も同じように行動しようとする心がめばえ、思いやりの心が育ちつつある。

（２）課　題

・発表力はついてきているが、聞く（理解する）力を高める指導をしていきたい。

・道徳での的確な切り返しができるよう、資料分析をさらに充実させた教材研究を行いたい。

（担当　教諭　髙島利夫）

Ⅲ 中学校における校内研修の取組

「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

山本　五十六

思考力･表現力を身につけ、学習に意欲的に取り組む生徒の育成
～言語活動の向上を目指した学習指導を基盤として～

秩父市立秩父第一中学校

1　第１回要請訪問

（１）日　時　平成２６年１１月２０日（木）

（２）教科等　第３学年美術

（３）題材名　砂絵でアート

（４）指導者　秩父市教育相談室　教育相談員　新井　和彦　先生

（５）授業展開

課程 時間	学習活動	指導上の留意点 （〔共〕：〔共通事項〕に係る内容）	評価基準
導入 5分	○本時の作業計画を確認する。 ○プロセスを見て、活動内容と注意点を確認する。 ○砂絵の技法を確認する。	○これまでの作業が十分にできているか確認をさせる。 ○（プロセスシートの確　認） ○砂絵で可能な技法をレクチャーする	関　意欲的に具体例を見ることができる。 【観察・表情】 ◎：砂絵の表現方法を理解しようとしている。 ◆：砂をまくことでどんな状態になるか分かりやすいように触れさせる。
展開 40分	○引き続きカットし砂をまく。 ○自分の主題にあった表現方法をみつけ、砂をまく。 ○道具や作品の片付け方を確認する。	○作品を離して作品経過と表現方法を確認させる。 ○面、線、部分の扱いでどのように違うのか試行錯誤しながら表現に幅を持たせる。 ○砂の量で調子の変化があることを理解させ、意図にあった表現法を見つけられるよう支援する。 ○作品の制作状況をみて自らの制作意図が表現出来たか見直しさせる。 ○共通のルールとしての意識を認識させる。	発　参考作品や友人の制作から自分の作品にあった表現方法を見つけ出そうとしている。 【観察・表現・対話】 ◎：作品の構成、バランスを考えながら自分の表現にあった表現方法を探そうとしている。 ◆：イメージがわきやすいようにヒントになる言葉がけをする。補色や色の響き、より良い構成をアドバイスする。
整理 5分	○本時の活動を振り返り、仲間の作品の良さを認める。	○仲間の作品の良いところを見つけ自分の作品に生かせるように声かけをしまめとする。	鑑　自分の制作について思った点や友人の作品の良さに気づける。 【観察・表情・発言】 ◎：自分と友人の作品を比べよさや美しさをとらえている。 ◆：ほかの人にはない良さや頑張りをほめ次時への意欲付けをする。

◎：十分満足できる状況　◆：C 判定生徒への手立て

（６）指導助言

○形態にこだわらず参考資料の提示はわかりやすくし､関心の低い生徒にも伝わるような配慮をすること。

○子どもたちの思いや願い考えなど書かれるとよい、それが評価する際のベースとなる。

○子どもたちが「こうしたい」「ああしたい」という希望や技法などを聞いてきたときに教えてあげることが教師の役割であり、教師が教え込んでしまうと技法は優れているがおもしろくない作品となってしまう。

○言語活動の充実はとても大切である。教師の言葉遣いなどが生徒に与える影響や重みをもう一度見直す必要がある。

○生徒を引きつける感動のあるおもしろい授業をして欲しい。

２　第２回要請訪問

（１）日　時　平成２７年１月２２日（木）

（２）教科等　第１学年国語

（３）題材名　言葉の研究②「日本語の音声」

（４）指導者　北部教育事務所秩父支所　学力向上推進担当指導主事　山中　桂一　先生

（５）授業展開

展開　※　★は研究主題との関わり

	☆学習活動　○学習内容	指導上の留意点	評価規準と指導の手だて
導入	☆アンパンマンの主題歌『勇気りんりん』を聴き、歌詞「みんなが大好きアンパンマン」の部分に二通りの意味があったことを思い出す。	・一学期授業ガイダンスの時に学習した内容である。だれがだれを好きなのかが二通りあることを思い出す。 指名されたときは起立し、「はい、～です。」	・思い出せないときには隣の人に聞いてもいいと助言する。 ・二通りの意味を思い出すことができたか。
	○補う助詞、主語の見立て方による意味の差。 「みんながアンパンマンのことを好き」 「アンパンマンがみんなのことを好き」 ☆今日の目標をワークシートに記入する。 ○本単元の学習計画と本時の目標の把握。	・言葉を補えばわかるが、補わなくても言葉の切り方や声の強調によって、違いをはっきりさせることができるということを押さえる。 ・今日の目標を板書し、学習内容を明確にする。 今日の目標：くぎりとアクセントの特徴をしろう！	・本時の学習目標を記入できたか。 ・本時の授業に興味を持つことができたか。
展開	☆プリント②練習一を解き、「みんなが大好きアンパンマン」のどこをくぎると二種類の意味になるかを考える。 ○くぎり。（読点の挿入） ☆【アクセント】の説明を聞き、プリント②練習二を解き、発音する。 ○アクセント（理解と発音）。	・「みんなが、大好きアンパンマン」…通常の文。 （「みんながアンパンマンのことを好き」） 「みんなが大好き、アンパンマン」…倒置法 （「アンパンマンがみんなのことを好き」） ・問題を解き、発音することで、アクセントに対する理解を深める。	・練習一のヒントを手立てに、答えを記入することができたか。 評価場面１ （具体の評価規準）ア①②③オ①② （評価方法）机間指導による観察 ワークシートへの記入、発言内容★ ・説明した内容を理解して強弱図を書くことができたか。
	☆プリント②練習三に取り組む。 ○アクセント（活用） 例　紙と神、柿と牡蠣	・自分の力でアクセントの例を考える。 ・くぎりやアクセントで内容が著しく変化することを押さえる。	評価場面２ （具体の評価規準）ア①③④オ①③ （評価方法）机間指導による観察 ワークシートへの記入、発言内容
	☆プリント②練習四を解く。 「悪の十字架」「開くの十時か」 ○言葉のくぎりとアクセント（理解と発音）	・教師の話を聞き、「アクノジュウジカ」の二通りの意味を考える。	・教師の話を注意深く聞き、意欲的に課題に取り組む（★）ことができたか。 ・自分の意見を積極的に発表する（★）ことができたか。 評価場面３ （具体の評価規準）ア③④⑤オ①③ （評価方法）机間指導による話し合いの様子の観察、ワークシートへの記入、発言内容★
	☆グループでプリント②練習五に取り組む。 ○言葉のくぎりとアクセント（活用） 例　鶏がいる、二羽鳥がいる。	・各グループの話し合い活動の様子を注意深く観察し、班長を中心に意欲的に意見を出せるように机間を回りながら指導、助言に努める。	・話合い活動に意欲的に参加する（★）ことができたか。
まとめ	☆本時の授業のまとめをプリント②の今日の目標となりに記入し、次時の予告を聞く。 ○本時の振り返りと次時の学習内容の予想。 ショートホラー『恐怖の味噌汁』とイントネーションの学習	・くぎりやアクセントを正しく使うことで、自分の思いを相手に正確に伝えることができることを押さえる。	☆本時の授業の目標を再確認し、なぜくぎりやアクセントが重要であるかを把握できたか。 ・次時の授業の見通しを持てたか。

（６）指導助言

○すばらしい授業だった。若い先生は参考にしてもらいたい。

○既習の学習に基づいて、これからの学習を想起させる。今日の学習が次の学習につながっていくことを意識させていた。

○課題を明確にし授業が進んでいた。

○生徒の反応を評価し、生徒の良さを認める"ほめる"言葉がけがあり、生徒とのコミュニケーションの場をつくっていた。

○全体で活動させるのではなく、一人一人に活動させる工夫が必要（板書させたり、貼らせたり、前に出させて活動させる）。

（担当　主幹教諭　黒沢明夫）

安心・安全な教育環境づくり
～豊かな心と危険回避能力の育成～

秩父市立秩父第二中学校

１　インターナショナルセーフスクール（ＩＳＳ）について

（１）ＩＳＳ（International Safe School）とは

より安全な教育環境づくりを目指している学校にＷＨＯ（世界保健機関）より認証された各地域安全推進協働センターが与える国際認証であり、（体および心の）ケガ及びその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動を組織的・継続的に取り組んでいる学校である。本校は平成２７年度の認証を目指して取り組んでいる。

（２）ＩＳＳ活動推進の８つの指標

国際認証を取得するためには下記の８つの指標に基づいた取組を行わなければならない。

・教師、生徒・学生、事務・技術スタッフ、保護者の協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制が整備されている。

・取組の方針（政策）は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会等の方向性と一致している（明文化されている）。

・長期かつ継続的に運営されるプログラムによって、両性・すべての年齢（学年）、 環境、状況がカバーされている

・ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある。

・根拠（エビデンス）に基づいた取組を行っている。

・事故・暴力や自傷などによる外傷の原因の頻度・原因を記録するプログラムがある。

・学校政策、プログラム、そのプロセス、変化による効果について評価する方法がある。

・地域内、国内・国際的なネットワークに継続的に参加する。

２　本校の具体的な取組

（１）本校の現状

ア　平成２５年度のケガの発生件数は５４件であり、そのうちの３１件は部活動である。ケガ全体から見る発生率としては部活動がもっとも高くなっている。

イ　自転車による交通事故は、平成２５年度は３件発生しており、また事故にはなっていないものの、道幅いっぱいに広がって登下校するなどの状況も見られる。

ウ　人間関係のトラブルから平成２５年度のいじめは９件、不登校５人、ネット上のトラブルが３件発生している。

（２）課題設定と達成目標

ア　部活動でのケガを予防する。平成２６年度は発生件数を２５年度の５４件を１５件以下、発生率３０％ 以下にする。

イ　通学路の安全確保に努める。自分たちで交通ルールを守っていくという安全意識の向上を図り、登下校時の安全確保に努める。

ウ　生徒同士の良好な人間関係を構築させることにより、いじめ・不登校・ネット上のトラブルを予防する。

（３）８つの指標に基づいた取組

ア　管理部…現状の把握と分析

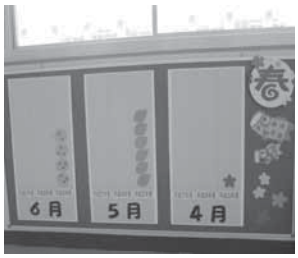
・ケガの発生状況把握・分析・広報

・安全に係る意識調査

・施設・設備の安全管理
（定期的な安全点検と不良箇所の修繕）

・安心・安全に係る啓発活動
（いじめ防止プログラム）

いじめ防止プログラム



ケガの発生状況

（熱中症対策講演会）
（救急救命講習会）
・部活動方針の策定
・校内危険マップの作成
・安全計画の見直し・改善

熱中症対策講演会

スケアードストレイト
技法による交通安全教室

イ　指導部…豊かな心と危険回避能力の育成
・生徒ＩＳＳ委員会の指導
（生徒会本部…いじめ撲滅宣言等）
（各委員会…ケガ、事故防止に向けた啓発活動）
（部活動…活動場所や使用施設・用具等の安全点検）
・ライフスキル学習の実施
・学級活動や部活動における「保健・安全教育」の充実
・いじめ（生活）アンケートの実施
・防災訓練の実施
・自転車通学者のヘルメット着用指導
・交通安全指導
（スケアードストレイトによる事故模擬体験）
・ＩＳＳロゴ・標語等の作成

生徒ＩＳＳ委員会

ＩＳＳロゴ

防災訓練の実施

ウ　地域連携部…保護者や地域との連携
・ＰＴＡによる校内巡回の実施　・ＰＴＡ登校安全指導の実施
・サポートチーム会議の設置（事案に応じたケース会議の実施）
・校区内パトロール隊ネットワークの構築

３　生徒会専門委員会の取組

（１）学級委員会　安全に生活できるよう呼びかける。注意を促すポスターの作成、あいさつ運動の実施等
（２）生活委員会　生活アンケートの実施、生活目標の設定、ゆとり登校運動、さよなら運動の実施等
（３）図書委員会　図書室の整理・朝読書の呼びかけ、図書だよりの発行等
（４）給食委員会　服装の確認、うがい・手洗いの呼びかけ等
（５）環境委員会　美化コンクール、教室内の整理整頓等、校内の環境整備
（６）放送委員会　清掃時、下校時の放送等、特に交通ルールの遵守の啓発に向けた取組
（７）保健委員会　ケガの統計・考察、熱中症予防等、ケガの予防・防止に向けた取組
（８）体育委員会　用具の管理、準備運動の徹底、号令等。ケガの予防・防止に向けた取組
（９）ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会　アルミ缶回収、ゴミ拾い、草取りなどの清掃活動等への取組

４　成果と課題

（１）成　果

今年度（Ｈ２６，１０現在）のケガの発生件数は昨年度と比較してそれほど減少は見られないものの、部活動中におけるケガの発生件数はある部活によっては大幅な減少を見ることができた。また、交通事故も発生していない。さらに各委員会においても生徒朝会等において安全に対する啓発活動を行ってきていることもあり、少しずつではあるが生徒の安全に対する意識は向上してきている。

（２）課　題

多くの生徒は交通ルールを守り、事故防止に努めようとはしているが、なかにはいまだに道幅いっぱいに広がって登下校している生徒がいる。また、良好な人間関係を構築できずにトラブルになってしまう生徒も出ている。このことから今以上に生徒の安全意識を向上させ、良好な人間関係が構築できるよう取り組んでいくことが課題となる。

（担当　主幹教諭　新井二二八）

すべての生徒が嬉々として登校できる学校の創造
～授業力の向上と基礎学力の定着をめざして～

秩父市立尾田蒔中学校

1　研究の主題について

本校の学校教育目標である「学習に励み、進んで行動する、心豊かなたくましい生徒」を育成するためには、生徒に自ら学習する力を身につけさせることが必要である。そのためには授業規律の確立や、道徳の時間及び特別活動などの生徒の活動の充実を通して、生徒と教師、生徒同士の信頼関係を築いていかなければならない。また、生徒の学力の向上には、言語活動の充実や教師の指導力の向上（授業力の向上）も必要である。

そこで、本年度は、①学力の向上（確かな学力の定着）　②生活規律の確立 ③コミュニケーション能力の育成（ライフスキル教育の推進）という３本の柱を、校内研修テーマ具現化のための達成項目とし、「学力」・「規律」・「コミュニケーション能力」というスローガンのもと、学校教育目標および校内研修テーマの具現化に迫る。

《 研究の仮説 》

学力の向上を目指して、各教科で規律および基礎･基本を身につけさせ、日々の教育活動において言語活動の充実を図る指導を行い、コミュニケーション能力の育成を図ることで自分の意思や考えを適切に表現できるようになり、すべての生徒が嬉々として登校できる学校を創造することができるであろう。

心豊かで自立して生きる生徒を育てるためには、生徒一人ひとりに、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させ、自分の周囲の人々と適切なコミュニケーションを図る能力を育成しなければならない。そこで、校内研修のテーマを具現化し仮説を立証するために、全教育活動を通じて生徒一人ひとりを細かく見つめ、意欲をもたせ、努力や変容を見逃さずに適切な評価をすることを全教職員の共通理解のもとに行うことが必要であると考える。

【 研 究 組 織 】

2　本年度の取組について

研究は３つの部会で次のような取組を重点としてすすめた。

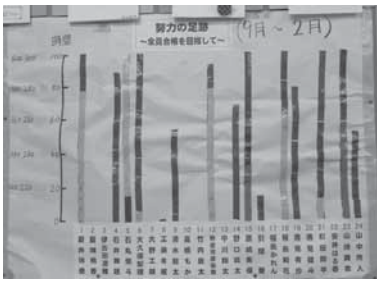
（１）学力向上部会

各教科の学力を高める指導の工夫、ＴＴ、少人数指導の実施、家庭学習体制の確立を中心に研究を進めた。

数学ではＴＴでの授業で問題演習の時Ｔ１、Ｔ２の役割分担をして、つまづく生徒、学習が進んでいる生徒に対して個別に支援をするようにしている。

各教科で、言語活動の充実を図るために授業でグループ討議を行って自分の考えをまとめたり、意見交換をしたり、発表の機会を増やしたりする取組をした。

また、家庭学習の充実に向けて家庭学習ノートを作成し１学年は１日１時間･２教科、２学年は１週間に７ページ、３学年は「努力の足跡」として学習時間をグラフにして掲示して達成感をもたせるように評価し意欲の喚起を図った。



３学年　「努力の足跡」

（２）規律確立部会

学習規律を確立するために、授業前準備、あいさつ、話を聞く姿勢、返事･発表の声の大きさ等、授業における基本事項の徹底を図る取組をおこなった。

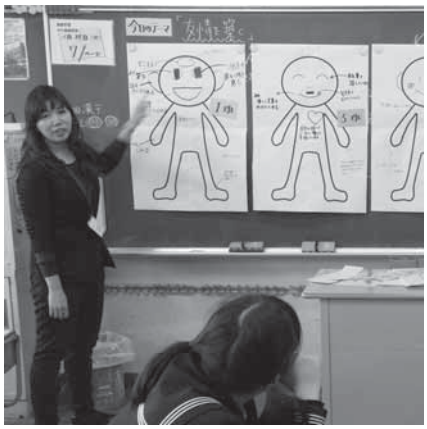
①教師が始業時刻前に教室に入室し、チャイムからチャイムまで授業を行う。

②始業、終業のあいさつでは「礼」のあと「着席」まで確認する。

③尾田蒔小学校と連携したスローガンを掲示。

④授業振り返りチェック表を活用した授業の自己評価の実施。

（３）コミュニケーション能力育成部会

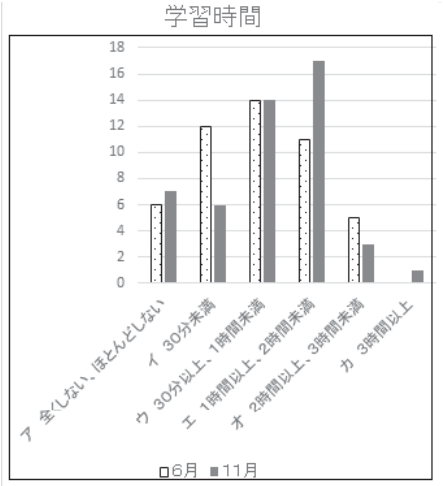


本校は平成２４･２５年度に、埼玉県教育委員会から「道徳教育研究推進モデル校」の委嘱を受け、道徳教育を推進して研究発表を行った。その研究を進める中でも人間関係づくりができるように学校行事などの体験活動を充実させてきた。さらに本年度はライフスキル教育に取り組み、コミュニケーション能力の育成を進めた。はじめに現状を確認するために生徒全員にアンケートを行い、改善が必要な部分を確認して実施する単元を決めた。そして秩父市教育委員会から栃木指導主事を講師として招聘してライフスキル教育の実技研修会(事前研修会)を実施し、全学級で授業を実施する際に差が出ないようにした。全クラスでの授業の実施、更に、要請訪問や教育支援担当･学力向上推進担当学校訪問、初任者研修で研究授業を行い、授業力の向上をはかった。

３　成果と課題

○始業、終業のあいさつをすることで、落ち着いて授業に入ることができ、よい雰囲気で授業をすることができている。

○家庭学習への取組は各学年ごとに工夫を行った。６月と１１月のアンケート調査で、学習時間が伸びていることが判明した。しかしその一方で、(家庭学習を)全くしない、ほとんどしないという生徒がいるので個別に支援をしていく必要がある。



○人間関係づくりのためにライフスキル教育の研修を行い、全学級でライフスキル教育を実施することができた。

●来年度からもライフスキル教育が実施できるように授業計画を作成する必要がある。

●来年度以降のライフスキル教育実施に向けて、本年度のライフスキル教育の効果についての検証を早急に行う必要がある。

（担当　教諭　関根　稔）